

令和5年度「過年度の卒業生に対するアンケート調査等」実施報告書

1 調査の目的

本調査は、本学が学生に対して、在学中に身につけさせたい学力や資質・能力および養成しようとする人材像に照らして、学生の卒業後の進路・就職状況等から、教育の成果や効果を検証することを目的に実施した。

2 実施概要

本学の卒業生を対象に、「現状」、「在学中の学生生活」および「在学中の学び」に関するアンケート調査を行った。アンケート調査結果は、学内において、集計・分析のうえで、教務センター等関係機関と情報を共有し、在校生に対する就職支援の改善および教育改善に反映させる予定である。

3 実施期間

調査期間：2023年7月1日より2023年7月31日まで

4 調査方法

対面聞き取りおよびメール送付メール回収

5 調査（設問）内容

本学が掲げるディプロマ・ポリシーに照らして、コミュニケーション力および課題解決能力を中心とした問を設定した。

6 調査依頼対象者

卒業後の連絡先が判明し、なおかつ、調査の主旨を理解したうえで、回答への協力をえることが可能な卒業生を中心に調査を依頼した。

7 学内担当

卒業生との連絡、アンケート配布・回収等の手続きおよび集計・分析については、キャリア支援センターが担当した。

調査概要

項目	内容
調査名	過年度の卒業生に対するアンケート調査
調査目的	本学が学生に対して、在学中に身につけさせたい学力や資質・能力および養成しようとする人材像に照らして、学生の卒業後の進路・就職状況等から、教育の成果や効果を検証すること
調査内容	回答者の基本属性のほか、進路状況、在学中の学生生活および在学中の学びに関する評価等
対象者	卒業後の連絡先が明確で、なおかつ、調査の主旨を理解したうえで、回答への協力をえることが可能な卒業生
調査方法	自記式調査
調査時期 調査期間	4月～3月（通年で実施）
調査結果の扱い	学内において、教務センター等関係部署と情報を共有し、就職支援の改善および教育改善を図るツールのひとつとする

I 回答者基本属性

表1) 性別

男	8
女	13
その他・回答しない	1
計	22

表2) 卒業年度

2016年度以前	15
2017年度	2
2020年度	4
2021年度	1
計	22

表3) 卒業時の所属学科

商学科	8
観光産業学科	13
未記入	1
計	22

II 現在の状況について

表4) 現在の職業等（業種等）

卸売業・小売業	7
運輸業・郵便業	3
不動産業・物品賃貸業	3
生活関連サービス業・娯楽業	2
情報通信業	1
金融業・保険業	1
教育・学習支援業	1
製造業	1
宿泊業・飲食サービス業	1
就職活動中	2
計	22

表5) 現在の職業等（職種等）

営業職	8
事務職	8
販売職	2
その他	2
未記入	3
計	23

注) 兼務1件を含む

表6) 現在の雇用形態

正規	18
非正規	2
未記入	2
計	22

表7) 卒業後の離職経験の有無

なし	12
1回	4
2回以上	6
計	22

表8) 現在の仕事への満足度

とても満足している	4
どちらかという満足している	12
どちらかという満足していない	3
まったく満足していない	1
未記入	2
計	22

8 集計結果

III 在学中の学生生活について

表9) 海外留学の経験の有無

ある	10
ない	12
計	22

(私費留学などを含む)

表10) インターンシップの経験の有無

ある	6
ない	16
計	22

表11) サークル(同好会)活動への参加の経験の有無

ある	20
ない	2
計	22

(北海学園大学ほか本学内外の公認・非公認を問わず広くサークル・団体への参加を含む)

表12) ボランティア活動の経験の有無

ある	7
ない	15
計	22

表13) 在学中に取得した資格・免許の有無

ある	18
ない	4
計	22

(教員免許や簿記などのほか、民間資格を含む資格全般を含む)

IV 在学中の学びについて

表14) 大学で学んだことに対する満足度

とても満足している	5
どちらかという満足している	15
どちらかという満足していない	2
まったく満足していない	
計	22

表15) 在学中の学びによる成長の有無

とても成長した	6
どちらかという成長した	14
あまり成長しなかった	2
まったく成長しなかった	
計	22

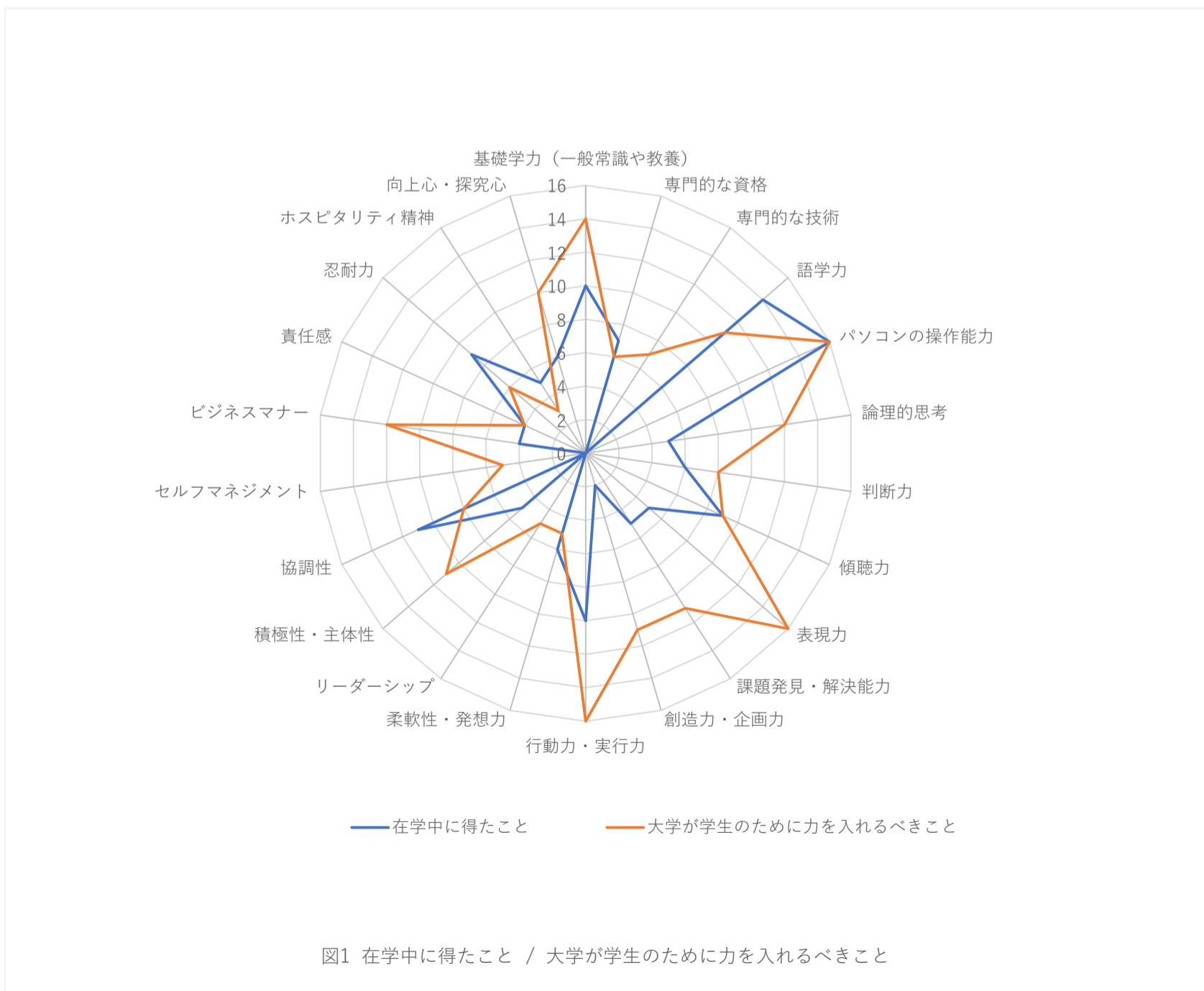
表16) 在学中の学びの、その後の社会生活や仕事への役立ちの有無

とても役立っている	7
どちらかという役立っている	12
あまり役立っていない	2
まったく役立っていない	1
計	22

表17) 在学中に得たこと / 大学が学生のために力を入れるべきこと

項目	在学中に得たこと		大学が学生のために力を入れるべきこと		
	回答数	割合	回答数	割合	
	人	%	人	%	
情報リテラシー	基礎学力（一般常識や教養）	10	45.5	14	63.6
	専門的な資格	7	31.8	6	27.3
	専門的な技術			7	31.8
	語学力	14	63.6	11	50.0
	パソコンの操作能力	16	72.7	16	72.7
論理的思考力	論理的思考	5	22.7	12	54.5
	判断力	6	27.3	8	36.4
コミュニケーション力	傾聴力	9	40.9	9	40.9
	表現力	5	22.7	16	72.7
課題解決能力	課題発見・解決能力	5	22.7	11	50.0
	創造力・企画力	2	9.1	11	50.0
	行動力・実行力	10	45.5	16	72.7
	柔軟性・発想力	6	27.3	5	22.7
チーム力	リーダーシップ			5	22.7
	積極性・主体性	5	22.7	11	50.0
	協調性	11	50.0	8	36.4
	セルフマネジメント			5	22.7
	ビジネスマナー	4	18.2	12	54.5
	責任感	4	18.2	4	18.2
	忍耐力	9	40.9	6	27.3
	ホスピタリティ精神	5	22.7	3	13.6
	向上心・探究心	6	27.3	10	45.5

注) 回答数は複数回答による。割合は回答者22名に対する数値である。



9 集計・分析結果

- I 回答者の基本属性の集計結果を表1から表3に示す。
- ・性別：男8、女13、その他・回答しない1であった。
 - ・卒業年度：2016年度以前15、2017年度2、2020年度4、2021年度1であった。
 - ・卒業時の所属学科：商学科8、観光産業学科13、未記入1であった。
- II 「現在の状況」の集計結果を表4から表8に示す。
- ・現在の職業の業種等：最も多い業種は、卸売業・小売業の7であった。次いで、運輸業・郵便業および不動産業・物品賃貸業3、生活関連サービス業、娯楽業2であった。
 - ・現在の職業の職種等：現在の職業等において、最も多い職種は、営業職および事務職の8であった。次いで、販売職2、その他2であった。
 - ・現在の雇用形態：正規18、非正規2、未記入2であった。
 - ・卒業後の離職経験の有無：離職経験なし12、離職歴あり1回4、離職歴あり2回以上6であった。
 - ・現在の仕事への満足度：「満足（「とても満足している」4、「どちらかという満足している」12）」との回答が8割（ $(16/20=)$ 80.0%）であった。一方で、「満足していない（「どちらかという満足していない」3、「まったく満足していない」1）」との回答も2割（ $(4/20=)$ 20.0%）であった。
- III 「在学中の学生生活について」の集計結果を表9から表13に示す。
- ・海外留学の経験の有無：ある10、ない12であった。
 - ・インターンシップの経験の有無：ある6、ない16であった。
 - ・サークル（同好会）活動への参加の経験の有無：ある20、ない2であった。
 - ・ボランティア活動の経験の有無：ある7、ない15であった。
 - ・在学中に取得した資格・免許の有無：ある18、ない4であった。
- IV 「在学中の学びについて」の集計結果を表14から表16に示す。
- ・大学で学んだことに対する満足度：「満足している（「とても満足している」5、「どちらかという満足している」15）」との回答が9割（ $(20/22=)$ 90.9%）を超えている。一方で、「満足していない（「どちらかという満足していない」2）」との回答も1割（ $(2/22=)$ 9.1%）程度あった。
 - ・在学中の学びによる成長の有無：「成長した（「とても成長した」6、「どちらかという成長した」14）」との回答が9割（ $(20/22=)$ 90.9%）を超えている。一方で、「成長していない（「あまり成長しなかった」2）」との回答も1割（ $(2/22=)$ 9.1%）程度あった。
 - ・在学中の学びがその後の社会生活や仕事に役立っているか否かの有無：「役立っている（「とても

役立っている」7、「どちらかというと役立っている」12)」との回答が8割（(19/22=) 86.4%）を超えている。一方で、「役立っていない（「あまり役立っていない」2、「まったく役立っていない」1）」との回答も2割（(3/22=) 13.6%）程度あった。

- ・在学中に得たこと：回答数が多い上位の項目は、「パソコンの操作能力」16、「語学力」14、「協調性」11、「基礎学力（一般常識や教養）」10、「行動力・実行力」10であった。
- ・大学が学生のために力を入れるべきこと：回答数が多い上位の項目は、「パソコンの操作能力」16、「表現力」16、「行動力・実行力」16、「基礎学力（一般常識や教養）」14、「ビジネスマナー」12であった。

IV 記述式回答 [大学が学生のために力を入れるべきこと]

(意見を集約した回答の傾向を以下に示す)

- ・適切な講義の遂行
- ・1年次からの就活などへの啓発
- ・インターンシップ、学内企業説明会のさらなる開催へむけた情報の発信
- ・サークル活動へのサポート
- ・Wifi やエアコンなどのハード面での環境整備
- ・キャリア教育の強化
- ・1年次からの就職・職業に対する意味付け

V 記述式回答 [卒業生向けに導入してほしいサービスや支援]

(意見を集約し回答の傾向を以下に示す)

- ・卒業生が大学に出入りしやすい環境整備（学びし直し）
- ・卒業生向けの講義（割引価格の適用なども含めて）
- ・OB/OG との交流・関わり
- ・自由学習コーナーや図書館の卒業生への開放
- ・離職した際の再就職へのサポート

※調査結果を受けて示唆された点は以下である。

- ・半数近くが離職（(10/22=) 45.5%）を経験しており、離職率の高さが顕著である。
- ・現在の仕事への満足度、大学で学んだことに対する満足度、在学中の学びによる成長度、および在学中の学びの仕事に対する役立ち度の割合は、8割から9割を占めており、いずれの項目においても学びの成果がえられたといえよう。ただし、満足度、成長度、役立ち度がえられていない卒業生も一定数いることから、在学時に実施している「講義に対するアンケート」および「卒業時のアンケート」など他の調査結果も加味したうえで、課題を探り改善へむけて対策を講じたい。
- ・「在学中に得たこと」および「大学が学生のために力を入れるべきこと」の双方で回答者が多い項目は、「パソコンの操作能力」「語学力」「基礎学力（一般常識や教養）」であった。したがって、

この3項目については引き続き、教育の質の向上へむけて、継続したプログラムを展開していきたい。

- ・一方、在学中に得られず、しかし、卒業して感じている「大学が学生のために力を入れるべきこと」として、「表現力」、「課題発見・解決能力」、「創造力・企画力」、「行動力・実行力」、「積極性・主体性」、「ビジネスマナー」をあげている。すなわち、これらは、「コミュニケーション力（の一部）」、「課題解決能力」および「チーム力」のカテゴリーに類する。コミュニケーション力、課題解決能力およびチーム力を涵養するプログラムが必要であろうことが判明した。今後は講義のみならず演習においても、コミュニケーション力、課題解決能力およびチーム力をどこまで高めることが可能かなどの検討が必要であろう。
- ・記述式自由回答では、「卒業生向けの講義」および「OB/OG との交流・関わり」との回答が複数みられた点が特徴的であった。今後は、同窓会などとの連携強化を図り、卒業生の意向を反映する企画を立案していきたい。